

日本のサケ科サケ属

日本のサケ科魚類は「サケ属」「サルモ属」「イワナ属」「イトウ属」に分類されています。

サケ属には、サケ、ベニザケ、ギンザケ、カラフトマス、サクラマス、マスノスケ、ニジマスが属しています。

サケ、カラフトマス、サクラマス、ベニザケなどは、一生に一回のみ産卵し、その後は全ての個体が死亡します。一方、同じさけ属なのにニジマスの一種(スチールヘッド)は産卵後も生き残り、海に戻ったあと再び河川へ遡上して産卵します。

生活域は様々なタイプに分類され、一生の一時期を海で暮らすものと、一生を川で生活するものがあります。

例えば、サクラマスは海に下る降海型と、川で一生過ごす陸封型(ヤマメ)があり、ベニザケは幼魚期の1~2年を湖沼で生活し、その後降海型と陸封型(ヒメマス)に分かれます。

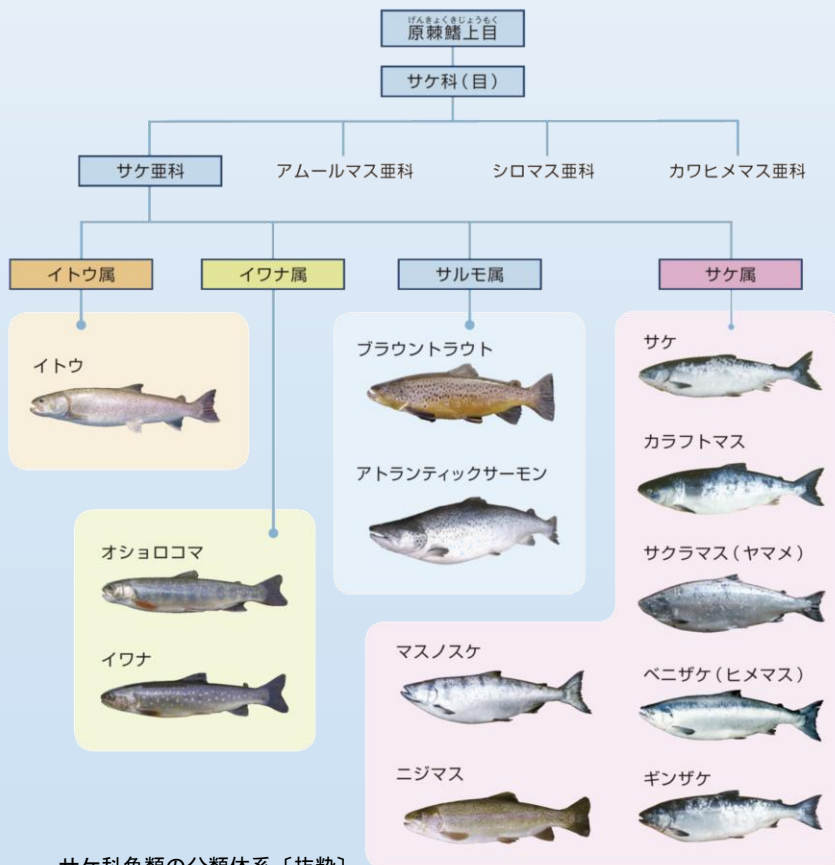
サケ属の生態についてはまだ謎の部分が多く、庶民の魚として愛されてきましたが高級魚となって手の届かない魚になりつつあります。

そのような中、2019年から渡島の八雲町でニジマス、根室市でベニザケの海面養殖の実証試験が行われ、獲る漁業から育てる漁業への転換が動き出しています。

今後も海面養殖の確立と人工化放流事業の益々の進歩に期待されています。

日本のサケ科サケ属

属名	標準和名	地方名	降海前の呼称	降海後の呼称
サケ属	サケ	シロサケ、秋あじ	サケ	サケ
	ベニザケ	ベニマス	ヒメマス	ベニザケ
	ギンザケ		ギンザケ	ギンザケ
	カラフトマス	青マス	カラフトマス	カラフトマス
	サクラマス (亜種)	本マス	ヤマメ	サクラマス
			アマゴ	サツキマス
			ビワマス	ビワマス
	マスノスケ	キングサーモン、大助	マスノスケ	マスノスケ
ニジマス		ニジマス	スチールヘッド	



サケ科魚類の分類体系〔抜粋〕

FRAニュース No. 16(2008年10月)の「特集サケの仲間たち」より